様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月 ２１ 日現在

機関番号：３３９１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２５８０

研究課題名（和文）日本古写本単経音義における異体字研究－『大般若経音義』三種を中心として

研究課題名（英文）A Study of the Variant Characters Used in the Sounds and Glosses in the Individual Hand-copied Buddhist Manuscripts Found in Japan

研究代表者
梁　暁虹（LIANG, Xiaohong）

南山大学・総合政策学部・教授

研究者番号：００３４０２７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：この三年間、主に「三種音義」（『大般若経音義』（石山寺本）、『大般若経字抄』（石山寺本）、『大般若経音義』（無窮会本）の写本仏経音義）を資料として、漢字学、特に異体字比較研究の角度から研究してきた。その成果は、学術雑誌にて出版した論文が13篇、専著一冊、また国際学術会議で発表した論文が15点になる。その意義を特筆するとすれば、「三種音義」の学術的価値を国際的視野の下に仏教音義研究を位置づけつつ、その資料の重要性を広く学界に紹介することでもある。さらに、異体字研究を通して、漢字が東伝し、新羅や日本へ流入、発展、変遷した過程を跡付ける漢字の文化史を明らかにすることも兼ねる。

研究成果の概要（英文）：In the past three years I have been conducting a research mainly on “Three Kinds of Sounds and Glosses” (The Hand-copy Manuscripts of The Sounds and Glosses on the Mahaprajnaparamita Sutra [Ishiyamadera and Mukyukai recensions, and the Excerpt of the Ishiyamadera Mahaprajnaparamita Sutra] from the vantage point of Chinese character studies, especially in the light of comparative variant-character analyses. It resulted in the formal publication of thirteen articles in scholarly journals, one monograph, and fifteen conference papers. To highlight the significance of the fruits of my research, it is to put the value of the study of the sounds and glosses of the Buddhist sutras in international perspectives and to introduce its scholarly importance to the academic world. Furthermore, through the study of the variant characters, it also clarifies the cultural history of Chinese characters as they were introduced to Silla, Korea and Japan where they had developed in their respective ways.

研究分野：漢字学、漢文仏典語言学、中国語史、言語学

キーワード：仏経音義　大般若経音義　漢字　異体字

研究開始当初の背景

（1）私はこの十数年間仏経音義研究に従事してきた。特に 2009 年からは、日本単経音義と漢字研究が主要な課題であった。俗字、則天文字、異体字、疑難字、漢字訓詁、漢字部首等の研究テーマである。本研究課題は、上記の研究成果を基礎として、より新しく、高度に専門的な研究と性格づけられよう。

（2）「三種音義」、即ち『大般若経音義』（石山寺本）、『大般若経字抄』（石山寺本）、『大般若経音義』（無窮会本）等の写本仏経音義中の漢字、特に異体字研究の資料は、豊富にあり、海外の学者にはあまり知られていない。また、日本の研究者が仏経音義を研究対象にする際、専ら国語史上での和訓、古籍訓点、漢字音等の方面に関心が向けられ、漢字学及び専門的な異体字研究の角度からは、踏み込んだ研究が見られない。

このような研究状況に鑑み、私が本研究課題を申請した動機は、三点ある： 一、日本の仏経音義「三種音義」を研究資料の根幹とし、古代日本の異体字研究の空白を填補すること。二、日本古代の「単経音義」を漢字の異体字研究中に正しく位置づけ、中国を始めとする外国の漢字研究との学問的リンクを形成することにより、漢字史研究の国際的潮流を誘起すること。三、国内外の学者による研究成果を比較しつつ、文字体系としての漢字の使用について、日· 中· 韓間の差異と共通性を考察すること。それによって、「普遍性」(pervasiveness)と「個別性」(idiosyncrasy)が明確になり、漢字が日本へと伝播し、或いは独自に或いは中国での漢字使用に影響されつつ発展していった経路をたどるといった漢字の文化史構築である。異体字という特殊の文字の使用現象という角度から漢字発展史を探るというアプローチは、今まで嘗試されなかったことである。これによって「伝播」、「受容」、「変容」(transformation) という文化史的な側面が新しい角度から浮き彫りにされ、異体字研究分野に一陣の新風を吹き込むことにもなると予想した。

２．研究の目的

本研究は、『大般若経音義』三種、即ち①奈良時代の僧信行撰（石山寺本，平安初期写本）；②歌人藤原公任撰（石山寺本，平安末期写本）；③作者不詳（無窮会本，鎌倉初期写本）―以下「三種音義」と簡称―を原資料とし、これらに見られる大量の異体字について、様々な角度から検討を加えることにより、“ 専経異体字字書 ”の性格を具えもつ日本独特の「単経音義」（中国の「一切経音義」と対比）が、異体字研究に提供する価値を正しく評価することを主目的とした。更に、日· 中· 韓に散在する異体字資料及びその研究成果を渉猟、比較分析し、「三種音義」をそれらの「縮影」と捉え、古代日本の学僧や知識人の漢字の認知程度や漢字が日本へと伝播し、如何に発展していったかという漢字文化史の側面も明らかにすることを副目的とした。

３．研究の方法

（1） 一次資料の調査と整理・分析。以下三点ほど記す：

一，既刊の未見資料を網羅的に収集し、それら資料の閲読に重点をおきながら、当該分野の先行研究の調査、整理。入手した重要な資料をスキャンし、漢字ごとの形音義に関する画像付きデータベースを構築。特に「三種音義」を精読し、異体字の使用状況の全体像の把握に努めた。

二，「三種音義」を全てスキャンし、データベース構築。また、『大般若経音義』系統以外の奈良· 平安· 鎌倉時代に編まれた「単経音義」古写本を収集し、関連する音義資料や異体字資料から有意義な部分を抜粋し、データベースに追補。これも古写本仏経音義における異体字使用状況の全体的な把握を目指す基礎作業に属す。

三，既刊の大型資料収集のほかに、奈良、

平安時代に使用された漢字、唐代の異体字関係資料の網羅的な収集。

（2）先行研究の検討

既刊の研究書、研究論文を閲読、ノートを取る作業を進めた。対象は、中国の『説文解字』、『玉篇』、『干禄字書』、『五経文字』、『九経字様』、『龍龕手鑑』、また台湾教育部所編『異体字典』等。日本の文献としては、杉本『異体字研究資料集成』（一期、二期）にも収録されている『異体字辨』、『異字篇』、『別体字類』、『古今異字叢』、『異体字彙』、『異体同字編』、及び日本漢字字体規範データベース編纂委員会(代表：石塚晴通)『漢字字体規範データベース』等。韓国のものとしては、李圭甲著『高麗大蔵経異体字典』等。これらの書に引用された異体字をスキャンし、原本と比較し、正確さを確認した。これは異体字分析の基本的かつ核心的な作業である。しかし、「三種音義」に於ける異体字研究に関しては、今まで先行のものがないため、ほとんどバージンフィールドと言ってよく、私の研究成果は、新鮮なものと思われる。

(3) “個案”考察

奈良から鎌倉時代にかけて用いられた異体字の一つ一つ（所謂“個案”）を対象とし、「三種音義」との内容の異同、特徴、さらに同時期のその他の単経音義古写本といかに関連づけられるか比較研究を行った。そのような方法を採ることにより、古代より伝承されてきた『大般若経』及び写本仏経に見られる実際の用字法が明らかになり、日本古代における異体字の認識、理解等の総括的叙述が可能になったと思う。

（4）比較研究及び綜合的研究

中·韓両国に於ける異体字資料、研究成果を取り入れ、特に国際的視野の下で研究した。その際、中国敦煌の遺書、石刻文献等、中古の異体字、韓国高麗蔵経異体字を焦点に据え、漢字が東伝し、新羅や日本へ流入、発展、変形した過程を跡付けた。

異体字を収録した日本の資料、中国、韓国に存在する関連資料を調査・整理。これらの基礎作業の後、各資料に見られる異体字の比較考察を進め、「単経音義」古写本が古代日本の仏教界、官界で果たした役割や漢字伝播の具体的な様相といった漢字文化史の一端も解明するよう努力した。

４．研究成果

この三年間、主に「三種音義」（既に言及）を資料として、漢字学、特に異体字比較研究の角度から研究してきた。その成果は、学術雑誌にて出版した論文が 13 篇、専著一冊、また国際学術会議で発表した論文が 15 点になる。これらは、国際的視野からは、新しい貢献があるとも思われ、幾つかは、インパクトがあると自負する。但し、日本仏経音義の漢字研究の内容は、非常に豊富であり、未だ研究する課題は残っている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

1 梁　暁虹　「日本早期異体字研究ー以無窮会本『大般若経音義』為例」 中国文字学会『中国文字学報』編集部編『中国文字学報』（北京：商務印書館） 査読有 7 巻 2017 239-249。

2 梁　暁虹　「日僧湛奕著『浄土論注音釈』考論」 華学誠主編『文献語言学』（北京：中華書局） 査読有 4 巻 2017 49-62。

3 梁　暁虹　「『大般若経』文本研究−以『大般若経校異併付録』為中心」 韓国交通大学東 ASIA 研究所·上海師範大学人文与伝播学院『東亜文献研究』(Chungju: China House) 査読有 20 巻 2017 1-17。

4 梁　暁虹　「日本信瑞『浄土三部経音義集』引『説文』考」 王藴智 史鳳民主編，『許慎文化研究』参（第三回許慎文化国際研究会論文集）（南昌：江西人民出版社） 査読無　3

巻　2017　62-83。

5 梁　暁虹　「日本訛俗字例考—以『香要抄』為資料」 浙江大学漢語史研究中心『漢語史学報』（上海：上海教育出版社） 査読有 18 巻 2017 24-36。

6 梁　暁虹　「天理本『大般若経音義』漢字研究」 国立台中教育大学、中国文字学会『第二十七回中国文字学国際学術研討会論文集』 査読有 2016 83-104。

7 梁　暁虹　「従無窮会本『大般若経音義』“先德非之”考察古代日僧的漢字観」 『漢語歴史語言学的伝承与発展―張永言先生従教六十五周年記念文集』 査読無 2016 586-610。

8 梁　暁虹　「亮阿闍梨兼意『寶要抄』与古籍整理研究—以佛典中心」 王暁平主編『国際中国文学研究叢刊』（上海：上海古籍出版社） 査読有 4 巻 242-261。

9 梁　暁虹　「無窮会本『大般若経音義』与異體字研究」 香港中文大学中国文化研究所呉多泰中国語文研究センター『漢語研究的新貌—方言·語法与文献』 査読無 2016 105-118。

10 梁　暁虹　「高山寺蔵古写本『華厳伝音義』論考」 韓国交通大学東亜研究所·上海師範大学人文与伝播学院『東亜文献研究』（Chungju: China House） 査読有 18 巻 2016 19-32。

11 梁　暁虹　「藤原公任『大般若経字抄』在日本仏経音義史上的地位」 韓国交通大学東亜研究所·上海師範大学人文与伝播学院『東亜文献研究』（Chungju: China House） 査読有 15 巻　2015　129-148。

12 梁　暁虹　「日本亮阿闍梨兼意『香要抄』研究」 『語言之旅―竺家寧先生七秩壽慶論文集』（台湾五南出版社） 査読無　2015 463-477。

13 梁　暁虹　「日本中世“篇立音義”研究」 徐時儀· 梁暁虹· 松江崇編『仏経音義研究–第三回仏経音義研究国際研討会論文集』 査読有 2015 62-83。

〔学会発表〕（計 15 件）

1 梁　暁虹　「日本佛経音義與古代漢語言文字工具書整理研究」 第十一回漢文佛典語言学国際学術研討会（台湾中央大学・仏光大学） 2017。

2 梁　暁虹　「日本佛経音義與中日俗字研究—以『新訳華厳経音義私記』為例」 “語言與現代化”学術研討会（マカオ理工学院） 2017。

3 梁　暁虹　「承暦三年本『金光明最勝王経音義』与異體字研究」 中国文字学会第九回学術年会（貴州師範大学） 2017。

4 梁　暁虹　「『大般若経』文本研究–以『大般若経校異併付録』為中心」 第四回東アジア文献研究国際学術研討会（揚州） 2017。

5 梁　暁虹　「天理本『大般若経音義』漢字研究」 第二十七回中国文字学国際学術研討会（国立台中教育大学） 2016。

6 梁　暁虹　「古代日僧所撰三種『大般若経音義』異體字研究」近代漢字第一回学術年会（河北大学） 2016。

7 梁　暁虹　「高山寺蔵古写本『華厳伝音義』論考」第三回東亜文献研究学術研討会（上海師範大学） 2016。

8 梁　暁虹　「信瑞『淨土三部経音義集』的語料価値研究」 第十回漢文仏典語言国際学術研討会（中国人民大学） 2016。

9 梁　暁虹　「日僧湛奕著『淨土論注音釋』考論」 第二回文献語言学国際学術論壇（北京語言大学） 2016。

10 梁　暁虹　「淨土三経音義在日本–以乗恩撰『淨土三部経音義』為中心」 第四回佛教文献与文学国際学術研討会（浙江大学·径山萬壽禅寺及び径山禅宗文化研究院） 2016。

11 梁　暁虹　「亮阿闍梨兼意『香要抄』與古籍整理研究—以佛典為中心」博物学与写本文化：知識―信仰伝統的生成与構造国際学術会議（復旦大学） 2015。

12 梁　暁虹　「日本早期異體字研究―以無窮会本『大般若経音義』爲例」 中国文字学会第八回学術年会（中国人民大学） 2015。

13 梁　暁虹　「日本中世“篇立音義”研究」 第9 回漢文仏典言語学国際研討会及び第3回仏教音義国際シンポジウム（北海道大学） 2015。

14 梁　暁虹　「日本信瑞『浄土三部経音義集』引『説文』考」 第三回許慎文化国際研討会(河南省漯河市） 2015。

15 梁　暁虹　「日本訛俗字例考－以『香要抄』為資料」 記念蔣禮鴻先生誕辰 100 周年及び第九回中古漢語国際学術研討会(浙江大学） 2015。

〔図書〕（計 2 件）

1 徐時儀・梁暁虹・松江崇 上海辞書出版社『仏経音義研究–第三回仏経音義研究国際研討会論文集』 2015 362pp

2 梁　暁虹　中国社会科学出版社（北京）『日本漢字資料研究－日本仏経音義』 2017 pp802

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
梁　暁虹（LIANG Xiaohong）
南山大学・総合政策学部・教授
研究者番号：00340274

(2)研究分担者
（　　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　　）